

各位

会 社 名 株式会社果実堂 代表者名 代表取締役 井出 剛 問合せ先

役職・氏名 経営企画室 小板橋 達也 総務経理室 緒方 美穂

電 話 096-289-8883

トヨタ自動車株式会社との資本業務提携に関するお知らせ

当社は、2014年12月10日開催の取締役会において、トヨタ自動車株式会社(本社:愛知県豊田市、代表取締役社長:豊田章男、東証第一部、証券コード7203、以下「トヨタ」といいます。)との間で資本業務提携を行うことを決議し、本日付で資本参加の手続きが完了しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 本資本業務提携の目的及び内容

2005 年設立の農業ベンチャー企業である当社は、葉野菜栽培の高度化を目的として、2008 年に熊本県内で本格的にベビーリーフの大規模栽培に着手しました。現在、ハウス内土耕栽培で年間 10 毛作の栽培に成功し、圃場面積 48ha、ハウス棟数 553 棟、年間生産量 500 トンの国内最大のベビーリーフ生産会社となっております。当社は自社内に研究所を有し、全ての栽培データをITを駆使して網羅的に管理するとともに、土壌、水分、温度、微生物等の至適条件に基づくサイエンス農業を実践しております。

一方、トヨタは、これまで自動車事業で培った生産管理手法や工程改善ノウハウを農業分野に 応用し、農業の生産性向上に関与してきました。

このたびの提携の主眼は、①機械化・IT化によるベビーリーフ生産のさらなる高度化と②< トヨタ生産方式>の導入による経営基盤の強化並びにカイゼンの取組みを通じた人材育成を目 指すことにあります。

また、当社は植物の機能性向上の研究にも取り組んでいます。本年2月には発芽促進研究所を設立し、大豆の発芽工程に環境負荷、免疫負荷を加えることで短期間に栄養価を著しく向上させる特許技術の取得に至りました。本研究成果は植物由来機能性物質の産生のみならず、機能性大豆として食料困難地域における栄養源の補給としての活路も見出せます。本分野でも、<u>③トヨタ</u>の保有しているバイオ技術との融合を検討し、将来の事業化を図ります。

2. 当社について

| 41 72 | ₩ ↑ △ 牡 田 ¬ 唑 | |
|-------|---------------------------------------|------------------------------|
| 社名 | 株式会社果実堂 | |
| 事業内容 | ・大規模ベビーリーフの生産,販売 ・機能性発芽食品の開発,製造,販売 | |
| | | |
| 設立 | 2005年4月6日 | |
| 本社所在地 | 熊本県上益城郡益城町田原 1155-5 熊本テクノリサーチパーク内 | |
| 資本金 | 7,500 万円 | |
| 主要株主 | 創業者 | [41.0%] |
| | 三井物産㈱ | [14. 5%] |
| | カゴメ(株) | [10.6%] |
| | トヨタ自動車㈱ | [3.7%] |
| | エア・ウォーター(株) | [2.0%] |
| | 矢崎総業㈱ | [1.9%] |
| | ㈱富士通九州システムズ | [1.6%] |
| | ㈱ミクニ | [1.6%] |
| 代表者 | 代表取締役社長 井出 剛 | (創業者) |
| 役員 | 代表取締役社長 井出 剛 | (創業者) |
| | 取締役相談役 井出博之 | (薬学博士) |
| | 社外取締役 藤井啓吾 | (カゴメ㈱ 執行役員 農事業本部長兼営業部長) |
| | 社外取締役 西川英行 | (三井物産㈱ 事業開発部 アグリフードビジネス戦略室長) |
| | 社外取締役 愛川義政 | (㈱富士通九州システムズ 取締役兼執行役員常務) |
| 従業員数 | 125名 (パート社員含む) | |
| 年間生産量 | 500 トン(2014 年度見込み) | |
| 売上高 | 10 億円 (2014 年度見込み) | |

3. 今後の見通し

本資本業務提携は当社の中長期的な成長と収益拡大に資するものと考えております。また、本資本参加によりトヨタは持株比率 3.7%の第5位株主となり、株主構成の安定化も見込まれるものと考えております。

なお、当社はアグリベンチャー企業として、2015年度以降の株式公開を目指しております。

以上